

ワイナリーを造る

ワイナリーへの道は予想以上に厳しい。それでも、自分自身のワインを思い描き歩き続ける彼らを見つめてみよう。

Photo: Motohiro Toda Text: Miyuki Katori



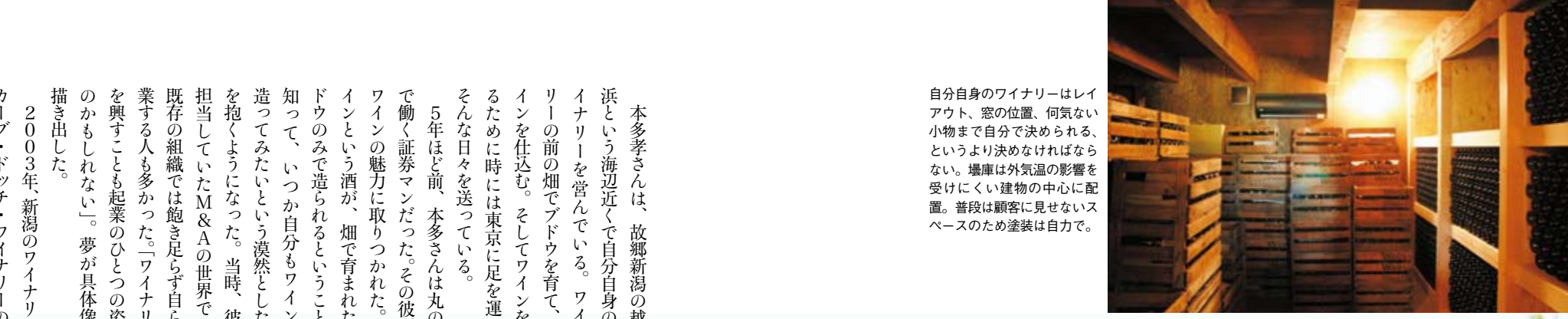
THE STORY OF MAKING A WINERY

Fermier

本多 孝さん(ワイナリー・フェルミエ)の場合

66 新潟の地でぼくたち家族のワインを造る! 99

THE HISTORY OF HONDA VINEYARDS & WINERY



自分自身のワイナリーはレイアウト、窓の位置、何気ない小物まで自分で決められる、というより決めなければならない。工場は外気温の影響を受けにくい建物の中心に配置。普段は顧客に見せないスペースのため塗装は自力で。

本多孝さんは、故郷新潟の越前浜という海辺近くで自分自身のワイナリーを営んでいる。ワイナリーの前の畑でブドウを育て、ワインを仕込む。そしてワインを売るために時には東京に足を運ぶ。そんな日々を送っている。

5年ほど前、本多さんは丸の内へ働く証券マンだった。その彼が、ワインの魅力に取りつかれた。ワインという酒が、畑で育まれたブドウのみで造られるということを知って、いつか自分もワインを造ってみたいという漠然とした夢を抱くようになった。当時、彼が担当していたM&Aの世界では、既存の組織では飽き足らず自ら起業する人も多かった。ワイナリーを興すことも起業のひとつの姿なのかもしれない。夢が具体像を描き出した。

2003年、新潟のワイナリー、カーブ・ドッチ・ワイナリーの代表取締役社長、落希一郎さんが**ワイナリー経営塾**(註1)を開くことを知った。入塾条件のひとつが3000万円の自己資金。「これだ!」と思った本多さんは何とか資金を工面、05年会社を退職後入塾した。半年後、塾を修了したが、扶養家族を持つ本多さんに、**ブドウが成熟するまで3年以上無収入**(註2)のままで待つ(註3)という選択はなかった。すぐにワイナリー建設に着工。初年度はブドウを買い付けて、ワインを仕込むことにした。



レストランを併設したのも同様の理由からだ。事業資金も運転資金も膨らんだが、不足分は中小企業金融公庫(当時)や地銀から借り入れることができた。そして06年秋、ワイナリーが完成した。「落さんはもちろん、いろいろな方に助けてもらいながら、ワイナリーを始めることができました。立ち上げから3年目、今もワイナリーを軌道に乗せようと必死になってもがいている状況です。しかし、家族規模ですべて自分たち

が手掛けられるこの仕事こそやりがいを感じている」と本多さんは言う。真つ黒に日焼けした顔、たくましい二の腕。畑で見た彼の印象は3年前と随分変わった。そして今年の秋、彼自身が育てたブドウから造ったワインが初めてリリースされる。

写真はフェルミエ・カベルネソーヴィニヨン2007。2009年1月には、自社畑産のフェルミエ・カベルネフラン2008が初リリースとなる。

1991 大学卒業(経済専攻)。日本興業銀行(当時)に入社。営業、M&Aを担当。
1999 新潟でワイン造りしたいと思い、カーブ・ドッチ・ワイナリーの落希一郎代表取締役社長を訪ね、ワイナリーへの就職を希望するが、断られる。一端は夢を諦める。
2003 落さんのワイナリー経営塾の存在を知り応募。3000万円の資金調達を目指すが、
2004 春…家族でカリフォルニアのナバヴァレー・ソマ視察。新潟税務署を訪問して免許取得手続き等について事前相談。銀行に事業資金の借入を打診。
11月…休眠会社が所有していた土地(ワイナリー建設予定地、当時は農地)を会社毎買収して取得。現社名Honda Vineyards & Winery(註4)に社名変更。
4月…ワイナリーにビザレストランを併設するために、家族でナボリのビザ専門店を視察。トスカナ地方のワイナリーも視察。
ワイナリー設立予定地の前の畑にブドウを植える(当時、畑はカーブ・ドッチの管理下にある)。
9月…みずほ証券退職。妻の有紀、長男とともに新潟に移る。栽培、醸造、ワイナリーの経営をこらえて学ぶ。
10月…ワイナリー経営塾に入る。
12月…ワイナリー建物の設計士、落さんと一緒にナバ・ヴァレーのワイナリーを巡る。ワイナリーの名前が「フェルミエ」に決定。

2005
2月…ドイツ訪問。落さんと一緒にドイツの醸造機器の展示会やメーカーに出向き、購入機材を決定。
3月…ワイナリーを建設するために農地転用を完了。
4月…果実酒醸造免許申請。ブドウの入手先決定。(2006年の仕込用のブドウ)
5月…ワイナリー建設着工。
9月…ワイナリー完工、免許取得、初仕込。レストランを開店(シエフはカーブ・ドッチ・ワイナリーより派遣されている)。
12月…フェルミエのワイン、「2006バカス」の初リリース。

WINERY DATA

ワイナリー・フェルミエ

創業：2006年
 自社畑面積：0.4 ha
 生産本数：1万本
 取り扱い品種：アルバリーニョ、シャルドネ、バカス、ケルナー、カベルネ・フラン、カベルネ・ソーヴィニヨン、ツヴァイゲルトレーベ
 付随施設：レストラン併設
<http://fermier.jp/>
 新潟県新潟市西蒲区越前浜 4501





これは美術出版社刊「ワイナート」52号(2009年9月号)の掲載記事を抜き刷りしたものです。